

世界の違いを超えて……。

相原紅愛

登場人物

高崎優香（たかさき ゆうか）

阿部美波子（あべ みなこ）

橋本光成（はしもと こうせい）

佐々木瑛規（ささき えいき）

夏休み。セミが鳴いている。昼過ぎごろ。

場所は街のビルとビルのすき間。

優香は足首をけがしてしまっている。

優香 いったあり。

優香、足のけがに手をかざす。

光成 え！ すご！ 今、ケガ治った！

瑛規 え、マジかよ。

美波子 うわあ！ すごおおい！

瑛規はクールにおどろくが、光成と美波子は幼稚園生のようにはしゃぐ。

優香、とつ然現れた三人におどろきながら

優香 え、そんなにすごいですか？ ありがとうございます！

光成 え！ それ、「チョーノーリョク」ってやつ？

優香 あ、はい。

三人「すごい」「やば」「おー」など口々に言う。

優香少し照れる。

ワイワイとしている中、美波子のかばんからペンダントが落ち、通行人にふまれてこわれ
てしまう。

美波子 あ。

瑛規 美波子？ （下を見る）あ。

光成 ミ、ミナリン……。

美波子 どう……しよ……。ペンダント、こわれちゃった。お母さんの……お母さんのかたみなの……。(しくしくと泣き出す)

男二人、だまって美波子を見ている。

優香、こわれたペンダントを左手にのせる。

優香 ……あの。これ……。(美波子に左手を見せる)

美波子、優香の手を見る。

優香だまって右手をかざす。

美波子 えっ？(優香の顔を見る)

優香 どうぞ。

美波子 あ。ありがと……。ございます……。(ペンダントを見る) はあ〜!! (喜ぶ)

光成 うおー!! すげー! 物も直せんのお〜!!

瑛規 すごい。ほんと。

美波子 あ、あの! ほんとにありがとうございます! すごいですね!

優香 え、いや、どういたしまして。(照) ありがとうございます。

光成 ねえ。君、友達になろうよ!

優香 え! いや、その……どうしよ……。

光成 ー。いや?

優香 いや、とかじゃなくて、その……私、実は異世界から旅行に来たので……。

三人 え——!!

瑛規 でも、一期一会ってことじゃねーの?

光成 そうだよ! いちご……パフェ? いちごパフェだよ!

瑛規 おい。意味変わってんぞ。

美波子、少し笑う。

瑛規 ま、これも何かのえんってことだよ。

優香 ……うん。そうだよね! よろしくお願ひします!

光成 じゃあさっそく! オレ、橋本光成! 「こうちゃん」って呼んで! あ、わかってると思うけど……オレ、ムードメーカーだよ!(ピースをする)

瑛規 自分で言うかよ。まあ、コイツバカだけど、いいやつだから。

光成 やったあ! えいきにほめられたーん!(かわいい声で)

瑛規 んで、オレは佐々木瑛規。よろしく。

優香と美波子、光成と瑛規のやりとりに笑う。

美波子 さっきはペンダント直してくれてありがとう！ 私、小六ん時にお母さん病気で天国行っちゃってさ。行っちゃう前に私にくれたのがこのペンダントなの。

私は阿部美波子。よろしくね。

優香 私は、高崎優香だよ！ みんなよろしくね！

光成 へー。ユカリンかー。

瑛規 光成、またむやみにあだ名を……。

光成 いいじゃないいいじゃん！

瑛規 ゆうかちゃん、こんなやつだけどこめんね。

優香 ううん！ 全然！ みんな面白いね！

美波子 あはは！ 私もそう思う！

優香 あ、そうだ。みんなって何才？

瑛規 高……

光成 高一だよ！

瑛規 うん。そう。

優香 え！ 私もだよ！

三人 え——！

瑛規 え……これ、ぐうぜん……だよな？

美波子 ……運命……とか？

光成 ありえなくもないよね。

優香 運……命……。

光成 あーなんかワクワクしてきたぞおー！

瑛規 おい、走り出したりするなよ。

光成 しないよさすがに……やっぱその場で走る！（走るふりをする）

瑛規 バカ。

優香と美波子、笑う

優香 みなこちゃん、一つ聞いていい？

美波子 うん。なに？

優香 みなこちゃんとこうちゃんとえいきくんって、どういう関係なの？

美波子 あー。それね（笑）私達元々同じ中学校だったの。でも、もちろん最初は全然仲良くなかったの。私なんか、お母さんがいなくなっちゃったってことで頭がいっぱいで、す

つごく悲しんでて、ずっと一人でいたんだ。そんな時、「なんでそんな顔してんの？」って声が聞こえて、見たら変顔したこうちゃんがいて、思わず笑っちゃって。

優香 ふふふっ。想像しただけでも笑っちゃう。

優香の目の前に光成の変顔が飛びこんでくる。

優香 あっはははは……！ おもしろ！

美波子 そうそうこれこれ(笑)

瑛規 あ、お話し中光成がすみませーん。(光成を連れもどす)

美波子 それで、えいちゃんが、「どうしたの？」って言うてくれて、私、お母さんのこと話して、そしたら「どう？」って。

優香 え？ どういう意味？

美波子 ふふっ。私も「え？」って聞きかえしたら、「さっきより、気分、スッキリしない？」って。

優香 えー！ やばーい！ めっちゃいい子！

美波子 そうなんだよねー。んー。それからいっしょにいるようになって……うん。あれからずっといっしょ。まあ、二人は幼なじみらしいんだけどね。

優香 へえ。なんか感動。

瑛規 そろそろお話はおわりかな？

美波子 うん。今、終わったとこ。

瑛規 光成。いいぞ。

光成 いえーい！ あ、そうだ。ユカリン！

優香 ん？

光成 ユカリンの世界ってどんなとこ？

優香 え、んー。この世界にはないものがある……かな。

光成 たとえば？

優香 私みたいに、一人一人が能力を持っている……とか、まほう使いもいたり……。

光成 ドラゴンは？

優香 いるいる。

瑛規 え、まじか。

優香 まあ森の中にいるけどね。

美波子 あ、じゃあようせいは？

優香 いるよ！ かわいい！ あと小人も！

光成 すごーい！

瑛規 ……。(考えている)

光成 えいき？ どうした？

瑛規 あ、おれも一つ聞いていいかな？

優香 うん。

瑛規 ……ゆうかちゃんって……どうやってここに来たの？

優香 なんかねー。異世界行きの新幹線ってやつがあつてき。どっちの世界からでも乗れるんだよ！ 今日もそれで帰るの。

瑛規 ふーん。

優香 あ、なんか、一応こっちの人もそれにのれば行けるらしいよ。ただ場所がわからないだけで、まだ一人も来てないんだけどね。

瑛規 へえ。あ、っていうか、おれらが気づいてないだけで、異世界から来た人って意外と近くにいるのかもな。

優香 へっへー。さつすがえいきくん。気づくの早いね。

瑛規 いやいやー(照)

美波子 ……ゆうかちゃん。その新幹線にのって、帰らないといけないんでしょ？

優香 うん。

美波子 ……じゃあ、お別れしちゃうってことだね？

優香 ……うん。

光成 な！ 連絡先交かんしよーぜ！ そうすれば次に来るときも会えるでしょ！

優香 ……そうしたいんだけど……異世界だから、つながらない。

光成 えーっ！ だめじゃーん！

優香 あ、でも、あつちの世界に人に声を届ける能力を持つてる人がいるからその人に頼むよ！

光成 ほえー。さすが異世界。

優香 まあ、一方的にしか届けられないけど(笑)

瑛規 やっぱすごい異世界。

美波子 行ってみたい。異世界。

優香 ン、なんか三人とも似てるようなこと言ってるやない？

三人 え！ ほんとに！

優香 うん。仲良いね(笑) (ふと時計を見る)

あ！ やば！ 時間！

三人 えー！

美波子 また会えるよね！

優香 うん！ また会お！ 絶対に！

光成 あ、さつき二人が話してたときに買ってきたんだけど……。

美波子と優香に青のブレスレットをわたす。

優香・美波子 うわあ〜！
光成 おれらとおそろい！

瑛規・光成、ブレスレットをつけたうで見せる。

優香 ありがとう！

光成 絶対また会おーなー！

優香 うん。じゃあね！

瑛規 気をつけろよー！

三人手を振る。優香、走り去る。

優香 あ。いったー！ (転ぶ)

三人 大丈夫？ (笑)

(おしまい)